

鑑賞音楽の年間

カリキュラムについて

福岡・栄幼稚園 笠 亮 子

鑑賞音楽の保育生活における効果のうち、幼児の活動に与える影響と、情緒の安定、陶冶に及ぼした影響につき考察を加える。

環境は農村背景の物資の集散地。資料は、鑑賞用レコード約十枚、オルガン。

園児、四(名(内十一名は二年保育児))で家庭は中流程度などのもとに、昭和三十三年四月～三十四年三月まで与えた結果、成果がみられたもの。

1、鑑賞音楽を、幼児に自由体形で与えた場合

生活訓練と鑑賞音楽を結びつけて、両者を関係させると、幼児の動きや、生活区分がはっきりしたこと。

2、個別的小グループ的に鑑賞した場合

(4)二年保育の女児、入園時は流行歌・はやりことば、動作(例・ロカビリー)のまねが著しい子どもが鑑賞音楽への興味から卒園時頃には余りまねなどがみられなくなったこと。(5)一年保育児の男児(精神・身体共に他の子どもより発達が遅れている)が始めは、レコードをみたりかけたりする事の興味から音へ移り、長い時間をレコードを聞く事で楽しみ、批判もするようになったこと。

全般的なカリキュラム操作について、

(1) 鑑賞用「小鳥屋にて」「時計屋の店」は、実際の店へ観察に行った後に与えた場合、成果があった。(2) 鑑賞用「乙女の祈り」を

主として、統一調整の音楽として与えた場合(子どもが騒いでいても、この曲を与えると静かになる)成功したこと。

また、期待したが成果が上がらなかったものも多く、これらのほとんどは、環境・資料・保育者の演奏などの準備の不十分さからきていると見られる。

全体として、個別的、小グループ的に鑑賞することはスムーズにいった場合が多かったが、一斉に聞く態度には、満足が得られなかった。この事については、きかせる技術の問題か、また本質的な問題か、今後の研究にまたねばならないと思っている点である。

小学校低学年の教育形態について

— 幼児教育との関連を中心に —

青山学院大学 佐藤 良 吉

研究報告のややくわしい要旨はプリントを参照されたい。

Ⅰ 幼児期をうけてはじまる小学校低学年はいろいろな点で幼児期とふかい関連をもっているが性格教育の観点からはとくにそのようにいうことができること。

Ⅱ 幼・児童期における性格形成過程での問題点を次の七つに類別して考えてみたこと。問題a群 社会的適応性に関する問題点、問題b群 神経質、虚勢傾向に関する問題点、問題c群 自己中心的傾向に関する問題点、問題d群 自己顕示的傾向に関する問題点、問題e群 退行的傾向に関する問題点、問題f群 興奮的傾向に関する問題点、問題g群 拒否的傾向に関する問題点。

Ⅲ これらの問題傾向に対する解決方法として自己遊びおよび集団遊びによる指導方法が極めて効果おおいものであること。